

ふるさと講座自然系第3回目を実施しました。 ～オジロワシ・オオワシ観察会～

2月16日（日）に実施しました。参加者は、6名でした。講師は、NPO法人野付・エコ・ネットワークの方々です。

はじめに郷土資料館にて、講師よりオオワシ・オジロワシについての生息数や特徴、大きさなどの説明を受け、風蓮湖に移動しました。車中や下車後の林では、オジロワシやトビをまじかで見ることができました。少し遠い距離の湖面上では、氷下待網漁の最中だったこともあり、雑魚に群がるオオワシを見ることが出来ました。天候も穏やかで暖かく、じっくり腰を据えて、お目当てのワシを観察する事が出来ました。また、車中や観察中の講師の方の鳥談義がとても好評でした。



冬の奥行臼散策デーを実施しました。 ～冬の黄昏時の奥行臼交通遺産群を巡るツアー～

2月23日（日）参加者11名で開催しました。奥行地区に所在する旧標津線跡、旧村営軌道風蓮線跡、旧浜中線の約1kmをカンジキで散策し、夕暮れ時の旧奥行臼駅通所の写真撮影を行いました。

参加者は、冬の文化財巡りをとおして、かつての風景に想いを馳せていました。



「昔のくらしと道具」を調べる授業。

小学校3年生の社会科には、「昔のくらしと道具」という単元があります。2～3月は、この授業が開始され、多くの学校が当館を訪れます。

数年前から、見学するだけでなく、実際に道具を使う体験を行っています。体験する道具は、「炭火アイロン」「火のし」「洗濯板」「湯たんぽ」「灯油ランプ」で、使い慣れない道具に悪戦苦闘しながら、体験してもらいます。

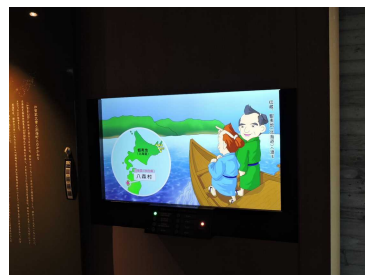
便利な生活をしている中で昔の道具を使うと、準備などに手間がかかり、その取扱いも不便さを感じますが、昔の生活の中では、常に密着し関連性のあるもので、知恵と工夫が隠されていることがわかったようです。



「アイヌ語通辞（通訳）加賀伝蔵物語」アニメーションの上映開始

昨年1月に刊行されました「アイヌ語通辞（通訳）加賀伝蔵物語」のアニメーションが完成し、3月から加賀家文書館にて上映を開始しました。

令和6年度アイヌ政策推進交付金を活用し、幕末にアイヌとともに生きた加賀伝蔵の生涯を町内外の多くの方に知ってもらおうと制作したものです。上映時間は、19分と長いアニメーションとなりますが、これまでの映像や日本遺産の紹介映像もご覧になることが出来ますので、ぜひ、ご来館ください。



郷土資料館～利用・活用のお願い～

自分たちの住んでいる町の歴史や自然の情報が詰まっている郷土資料館へ来てみませんか？ 一度も来たことが無い方、何度も来た方、改めて来てみると、以前は無かった物（資料）があったり、新しい情報を得ることが出来るかと思います。

郷土資料館は、3つの施設があります。



郷土資料館

町の歴史や自然を紹介しています。古くから開拓時代の資料や動物のはく製が多く展示されています。



附属施設加賀家文書館

「加賀家文書」という幕末に書き残された古文書資料を展示、別海町や広く根室管内の様子を知ることが出来ます。



豊原分館（旧豊原小学校）

根釧パイロットファームの歴史を大型写真パネルでみることが出来るほか、多くの郷土資料を見ることが出来ます。

町内の文化財についても担当しています。

「旧奥行臼駅通所」「西別湿原ヤチカンバ群落地」をはじめとする国指定文化財。町指定文化財、別海町歴史文化遺産など、町内に残る貴重な文化遺産の保護・保存・調査・研究を行っています。



講座・特別展などを実施しています。

詳しくは、ホームページなどをご覧ください。

別海町郷土資料館だより No.308

発行日 令和7年3月1日
発行所 別海町郷土資料館
別海町別海宮舞町 30 番地
電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

編集後記

冬期間は、小学校の「昔のくらしと道具」授業で、多く学校に活用されています。はじめて、郷土資料館に入る児童も多く、見るもの全てが珍しく歓声が上がります。昔の道具では、「あれなんだろう？」「これどうやって使うの？」などの質問も多く受けます。視野を広く色々なものを見ることは大切なことと改めて感じました。